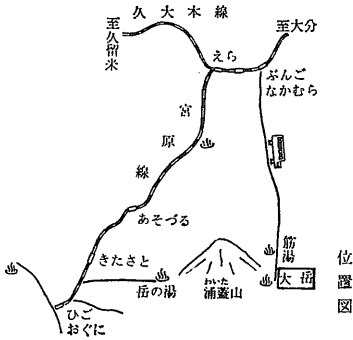


# 大岳の地熱開発軌道にのる

中村久由

九州電力が大岳地域の地熱開発に着手したのは昭和28年であるから 松川と同じようにすでに10年余の歳月が流れている この間 28年から32年にかけて 1号井(深度300m) 2号井(300m) 3号井(900m) 5号井(450m) の掘さくがなされ いずれも熱水の噴出をみたのであるが 当時の天然蒸気説がわざわざして 広く関心と呼ぶに至らなかった。このうち5号井は 昭和36年12月孔内浚渫により再度噴出 現在セパレーターで分離し熱水70トン/時 蒸気14トン/時が常時噴出している。現在までに得られた 5 6 7号井の蒸気量だけで少なくとも60トン/時は下るまいと思われ 5000kW 発電は確実と思われるが 今後さらに8号井 9号井の掘さくが計画されているので その量はなお増大するものと期待される。この地域は 典型的な第四紀の火山地域であり 地熱の埋蔵形態については まだ十分明らかにされていないため 地質調査所地熱グループは 広域的に地質調査 重力探査を行ない これに噴気ガス 温泉水の地球化学的研究も加えて 地熱の実態を究明中である。もし 地熱の埋蔵形態が明らかになれば 日本における新しい型の1つになるかもしれない。

いずれにしても 大岳における今回の成功は 企業化の見とおしに確かな基礎をきずいたものであり わが国の地熱事業を促進させる上に 有力な材料を与えたといつてよい。  
(筆者 地質部応用地質課)



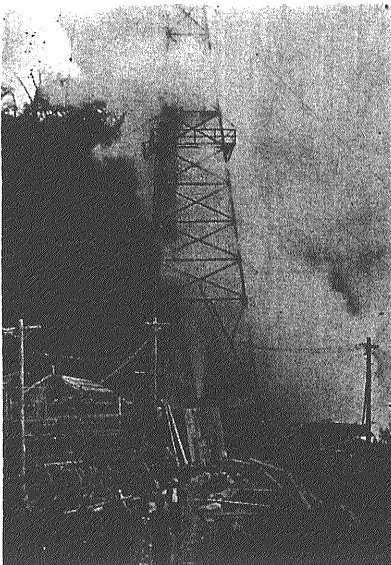
## 地熱開発 6号井・掘さくに成功

九重火山を東に控えた ここ大分県 飯田 高原の大岳地域では 昨年の秋から ドリリング工業の手で 九州電力地熱開発6号井の掘さくが進められていたが 2月21日 予定深度500mを掘り終わり 直ちに揚水試験を行なったところ 熱水量1時間に約150トンという多量の噴出をみ みごとな成功を収めた。その2割に当たる30トンが蒸気量とみなされるので この井戸1本で ほぼ2000kWの出力に相当する 地熱エネルギーが得られたことになる。

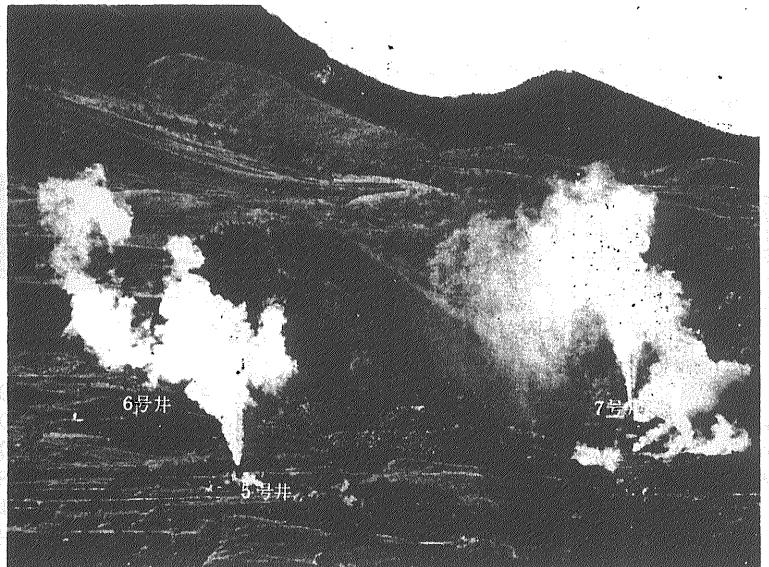
## 続いて7号井も噴出

6号井に引き続き 今年3月下旬から 旧1号井のそばで掘さくを始めた7号井は 4月20日 深度336mで 有力な熱水脈に到達し またまた1時間に150トン以上という熱水の大噴出をみた。 いずれ正確な計量がなされるであろうが 地熱開発の道にたざさわる者にとって これらのニュースはすばらしい朗報である。

## これまでのいきさつと今後の見とおし



大岳7号井の噴出



大岳地熱地帯